

令和7年度 第4回 伊勢地域公共交通会議【書面会議】

事 項 書

1. 議 題

議案第1号 令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

令和 7 年度 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

1 要 旨

国の地域公共交通確保維持改善事業による支援を受けた事業については、効果的かつ効率的に事業を推進するため、補助金交付要綱及び実施要領により、事業の実施状況の確認及び目標達成状況等の評価（一次評価）を行うことになっています。

これに伴い、本交通会議で計画・実施した事業について、別紙により評価（一次評価）を行い、中部運輸局へ提出するものです。

2 補助金の名称

地域公共交通確保維持改善事業費補助金

※ 参考：補助金交付要綱第 1 条

この補助金は、生活交通の存続が危機に瀕している地域等において、地域の特性・実情に最適な移動手段が提供され、また、バリアフリー化や、より制約の少ないシステムの導入等移動に当たっての様々な障害の解消等がされるよう、地域公共交通の確保・維持・改善を支援することを目的とする。

3 評価対象事業

(1) 地域公共交通確保維持事業

陸上交通における地域内フィーダー系統

①おかげバス

（鹿海・朝熊線、東大淀・明野・小俣線、二見線、辻久留・藤里線、環状線）

②沼木地区自主運行バス（市内連絡用（1）・（2）・（3）、市内連絡・買物用（1））

4 提出書類

別紙のとおり

(1) 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（中部様式）

(2) 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価

（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）（別添 1、別添 1－2）

令和 7 年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

伊勢地域公共交通会議 (伊勢市)

平成18年11月30日設置

令和 2 年 3 月25日 伊勢市地域公共交通網形成計画策定
(計画期間：令和 2 年 4 月～令和 8 年 3 月)

令和 6 年 6 月24日 フィーダー系統 確保維持計画策定

評価対象の地域公共交通確保維持事業
・ 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

地域の特性と背景

- 人口：経年的に減少傾向、高齢化は着実に進展（R2時点高齢化率：32% H27時点高齢化率：29%）
- コミュニティバス：H19.4から運行開始、利用の約7割が65歳以上、目的は買物・通院が多い
- 市内環状バス：社会実験運行後、R2.4.1からおかげバス環状線として本格運行
- 路線バス：利用者数は市民が主に利用する一般路線で減少、年齢層は幅広く、観光利用が特に多いほか、通勤や通院、買い物など多様な利用目的
- H28.3「伊勢市地域公共交通網形成計画」策定、R2.3に改訂

総合計画・都市マス・立地適正化計画における公共交通（バス）の位置づけ

- 誰もが安心して移動できるための地域公共交通の充実
- 誰もが利用しやすい公共交通手段の充実
- 地域間交流の促進
- 生活基盤としての公共交通の確保
- 公共交通の利用促進により交流人口の増加
- 鉄道やバス、タクシーなど様々な公共交通の連携

（改訂）伊勢市地域公共交通網形成計画

○計画期間

令和2年度～令和7年度

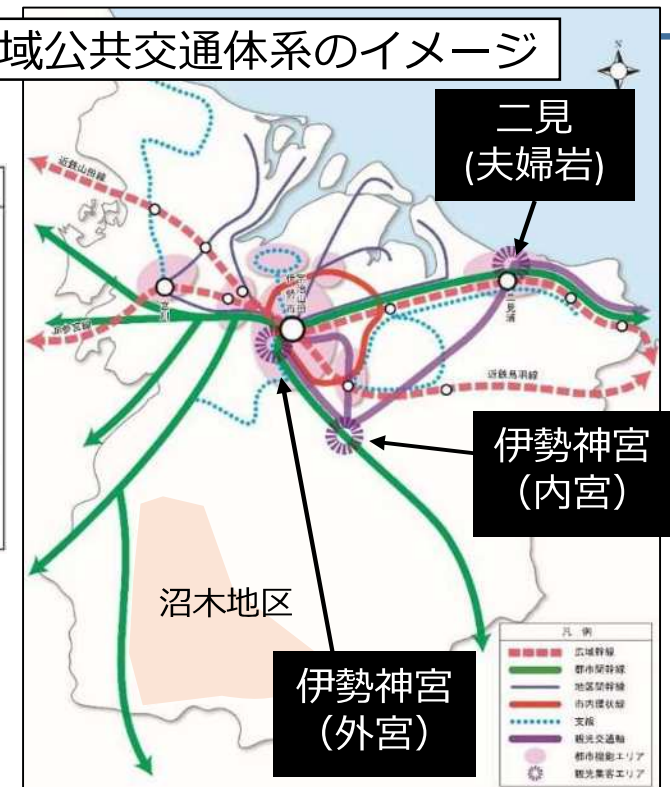
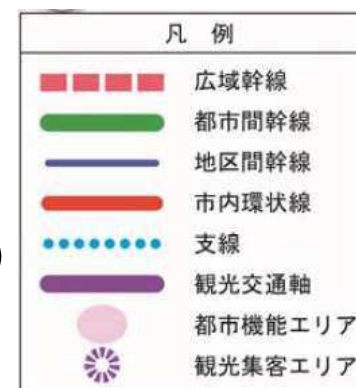
※現在、令和8年度～令和12年度までの次期計画（案）を策定作業中

（令和6年度に地域公共交通調査事業を活用）

○基本方針

- ①日常生活で利用できる公共交通を目指す
- ②公共交通を利用した観光交流人口の増加を目指す
- ③地域の関係者が協働・連携しながら自ら公共交通を支える

伊勢市地域公共交通体系のイメージ



主な取り組み内容

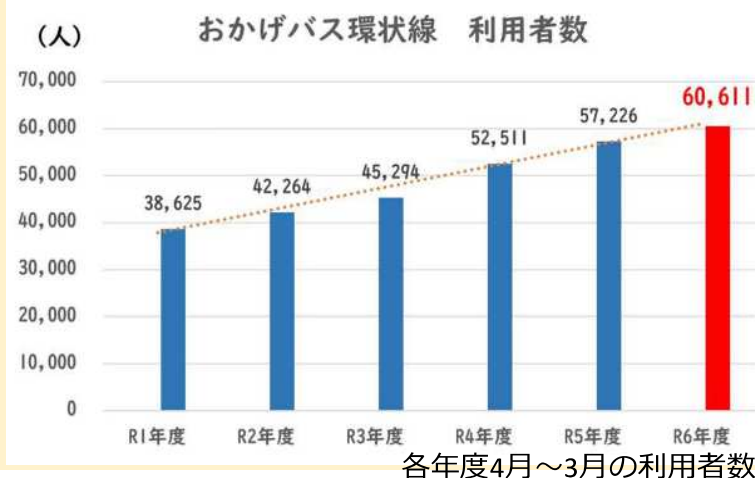
おかげバス環状線の運行



令和2年4月からの本格運行を開始後、新型コロナウイルスの影響を受けつつも、令和6年度に至るまで**全体的な利用者が増加傾向**。★利用者数：42,264人（R2年度）→60,611人（R6年度）

その他のおかげバスや路線バス、鉄道および地域運営乗合タクシーとの**乗り継ぎ割引**を継続して実施。

- 運行時間：約90分/ 1周
- 運行距離：18.2km/ 1周
- 運行回数：右回り、左回り各 9 便
- バス停留所：31箇所
- 運賃：大人200円、高齢者100円



バスの乗り方教室

バスに乗る機会が減少するなか、バスへの興味喚起や利用啓発のため、**市内の小学校5校とまちづくり協議会 1 団体**で実施。

※児童124人と
住民19人が参加

- ・バスの乗り方
- ・運賃・ICカードについて
- ・乗車マナー（小学生）
- ・乗り継ぎ案内（まち協）
- ・体験試乗



のりものふれあい広場・バスポスターコンクール

伊勢まつりにて「のりものふれあい広場」を出展。
電気バスの展示・バス乗務員制服着用体験や
バスのクイズラリーで利用啓発を実施。
また同会場にて、バスポスターの表彰式を実施。



地域公共交通を便利で有効な移動手段として認識してもらうきっかけ作りとして、今年度から各種選挙時の期日前投票所への移動支援の実施するほか、市制20周年記念事業の一環としてバス等のお試し乗車券がついたチラシの広報誌への同時配布を行った。

期日前投票所への移動支援

R7年7月～

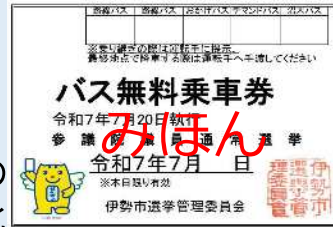
各種選挙の開催時、自宅から期日前投票所への往復に使うバス等の運賃を、投票所入場券の提示で無料化する移動支援を開始した。

(実績:

7月参議院議員選挙・・・120件

9月三重県知事選挙・・・100件

10月伊勢市長・市議会議員選挙・・・106件)



市制20周年記念「みんなでバスに乗ってこに！」 (お試し乗車券配布等)

R7年11月1日～11月3日

バスの乗り方等を記載したチラシを広報誌へ折り込み、伊勢市内に全戸配布を行った。チラシには、伊勢市内の路線バスやコミュニティバスに無料で乗車できる「お試し乗車券」2回分を添付し、バスを使ったおでかけを促した。

(3日間で2,168件の利用)



公共交通でゆく 神宮125社めぐり帖

R7年2月～

伊勢市や周辺に点在する神宮125社を公共交通でめぐるための、モデルコースを提案するサイトを開設した。

3月8日(土)にはモデルコースをもとにしたウォーキングツアーを開催した。

(実績:ウォーキングツアー参加者15名(満員))



SNSアカウントの開設

R7年7月～

伊勢市の公共交通に関する情報を発信するツールとして、X・instagramのアカウントを作成し、情報発信を開始した。



目標値は10項目（重複除く）中、4項目で達成、6項目が未達。

	現況値							目標値
	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
基本方針1 日常生活で利用できる公共交通を目指す								
目標① 路線バスの運行維持・改善								
外宮内宮線・CAN ばす・二見サンアリーナ線を除く路線バスの利用者数	1,584,300人	1,491,500人	989,300人	1,043,900人	1,129,400人	1,128,900人	1,138,200人	158万人
目標② コミュニティバスの運行継続・改善の指標と目標値								
おかげバス・おかげバスデマンドの利用者数	81,654人	120,886人	101,367人	103,744人	115,754人	123,024人	128,563人	89,000人
沼木バスの利用者数（スクール用を除く）	3,722人	3,113人	2,074人	1,581人	1,865人	2,345人	2,677人	3,700人
年間利用者数72 名未満のコミュニティバス停留所の割合	31%	34%	29%	25%	28%	20%	23%	21%
目標③ 公共交通の利便性向上								
外宮内宮線・CAN ばす・二見アリーナ線を除く路線バスの利用者数	1,584,300人	1,491,500人	989,300人	1,043,900人	1,129,400人	1,128,900人	1,138,200人	158万人
おかげバス・おかげバスデマンドの利用者数	81,654人	120,886人	101,367人	103,744人	115,754人	123,024人	128,563人	89,000人
沼木バスの利用者数（スクール用を除く）	3,722人	3,113人	2,074人	1,581人	1,865人	2,345人	2,677人	3,700人
市民アンケートの交通環境満足度（満足・どちらかといえば満足）	49%	47%	51%	50%	42%	31%	32%	59%
基本方針2 公共交通を利用した観光交流人口の増加を目指す								
目標① 公共交通を利用した観光振興の推進								
内宮参拝者の公共交通利用率	31%	34%	9%	17%	25%	26%	26%	35%
外宮内宮線・CAN ばす・二見サンアリーナ線路線バスの利用者数	2,676,600人	2,769,900人	1,130,500人	1,229,400人	1,576,900人	1,653,600人	1,783,300人	300万人
基本方針 3 地域の関係者が協働・連携しながら自ら公共交通を支える								
目標① 利用するきっかけの創出								
公共交通の啓発・利用促進事業に参加した人数	857人	838人	187人	351人	1,302人	980人	986人	940人
目標② わかりやすい情報提供の展開								
おかげバス・おかげバスデマンドのページ(伊勢市ホームページ)アクセス数	3,876件	51,930件	24,906件	35,181件	72,368件	79,481件	64,719件	42,000件
目標③ 公共交通を地域で支え、育てる								
伊勢地域公共交通会議の開催数	5回/年	4回/年	4回/年	3回/年	4回/年	4回/年	5回/年	4回/年

※薄字は重複項目

前回改訂

新型コロナウイルス

□:目標値を下回る

路線再編

⇒全般的にコロナ後の生活様式の変化を踏まえた目標値の再設定が必要

⇒利用が低迷している公共交通利用率を上げるための施策が必要

生活交通確保維持改善計画

おかげバス	利用者数（評価期間R6.10～R7.9）			1人1回あたり輸送コスト		
	目標	実績	達成率	目標	実績	差
鹿海・朝熊線	8,700人	7,307人	未達成 84%	1,280円	1,532円	252円
東大淀・明野・小俣線	23,400人	★23,997人	達成 103%	1,370円	1,337円	-33円
二見線	12,300人	10,972人	未達成 89%	1,550円	1,748円	198円
辻久留・藤里線	13,000人	★14,648人	達成 113%	1,520円	1,356円	-164円
環状線	59,700人	★62,087人	達成 104%	740円	718円	-22円
計	117,100人	★119,011人	達成 102%	—	—	—

【目標値】R6の実績に対し伸び率+2.6% 環状線・・・R6の目標値（57,920人）に対し伸び率+3.0%
 ★おかげバスは、環状線と東大淀・明野・小俣線で**前年度の利用者を上回った**。

⇒特に鹿海・朝熊線は毎年利用者が減少しているため、利用者ニーズに沿った路線・ダイヤの見直しが必要である。鹿海・朝熊線と二見線は改善検討が必要であることを次期計画に位置付ける。

⇒全体的な利用の底上げとして、現在の非利用者に対する効果的な利用促進施策が必要

沼木地区自主運行バス	利用者数（評価期間R6.10～R7.9）		
	目標	実績	達成率
市内連絡用（1）（床ノ木→神園）	310人	342人	達成 110%
市内連絡用（2）（床ノ木～横輪口）	930人	333人	未達成 36%
市内連絡用（3）（津村口→床ノ木）	310人	103人	未達成 33%
南伊勢高校度会校舎前連絡（補助対象外）	310人	286人	未達成 92%
市内連絡・買物用（1） （床ノ木～度会町）	1,550人	★1,553人	達成 100%
計	3,410人	2,617人	未達成 77%

【目標値】

沼木バス・・・補助基準の下限である、**片道あたり1名以上乗車を目標**

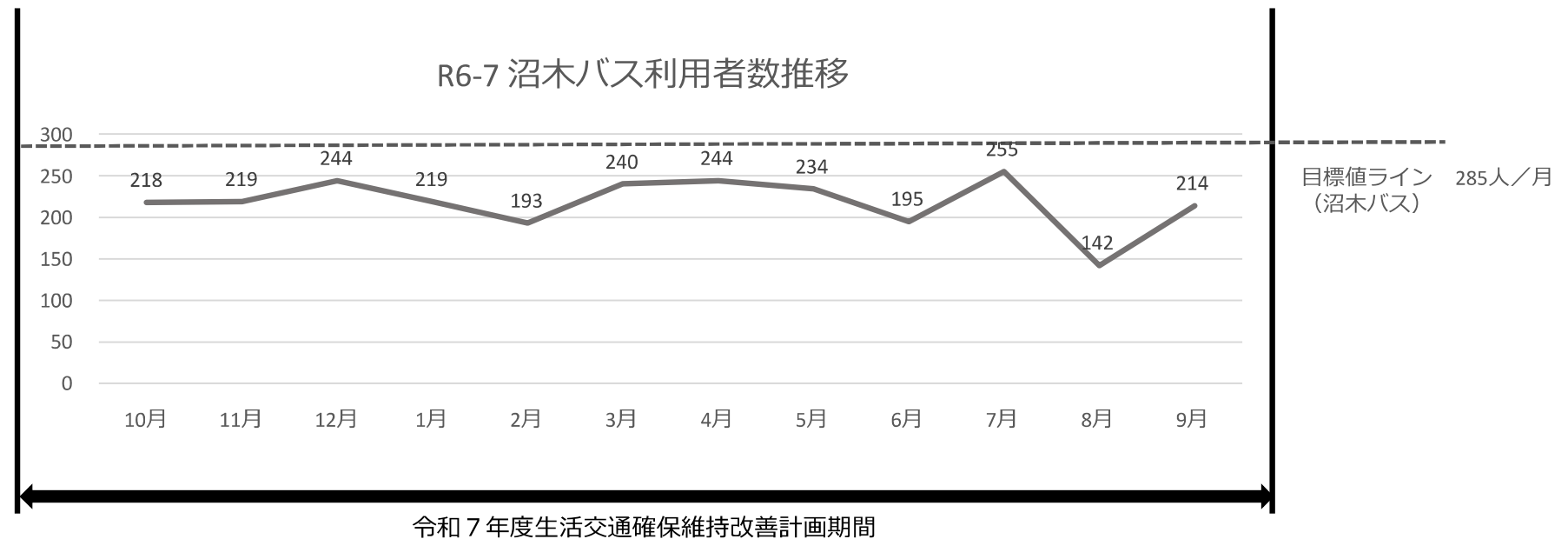
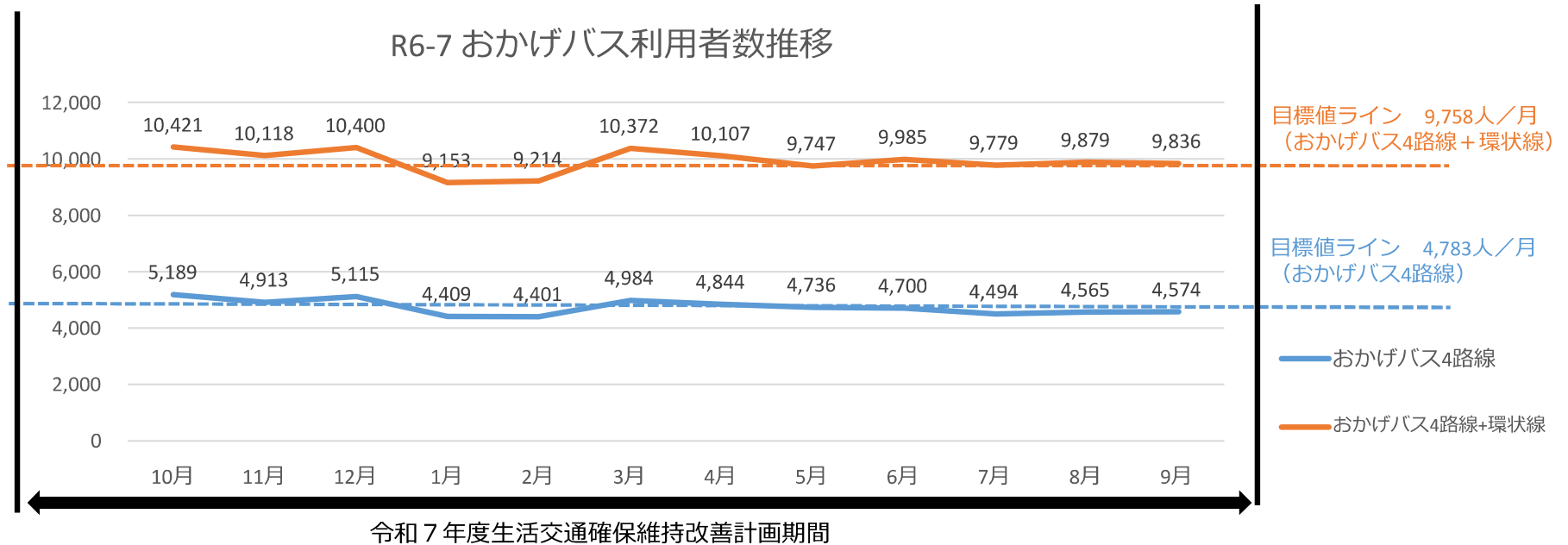
→市内連絡用(2)(3)は、補助基準の目標に対し、実績が大きく下回っている。

市内連絡用(2)は、「市内連絡・買い物用（1）」の始発場所まで回送していたものを路線化したことによるもので、市内連絡用(3)は車両の運用上、買い物用便のうち特に利用が少ない時刻の便の運行区間を短縮したものの。

⇒系統によりバラつきが大きく、定期利用者が1名いるかないかで、のべ利用者数も大きく変わる。

※自己評価を行った会議：第4回伊勢地域公共交通会議（令和7年12月、書面決議）

【参考】利用者数の推移



【参考】（改訂）伊勢市地域公共交通網形成計画の評価指標と現況値

N O	指標	計画策定時 (H30年度数値)	実績値	目標値 (R7年度)
1	路線バスの利用者数（外宮内宮線・CANばす・二見サンアリーナ線を除く）	1,584,300人	未達成 1,138,200人 (令和6年度)	1,580,000人
2	おかげバスの利用者数	81,654人	達成 126,071人 (R6.10～R7.9)	122,200人 (R6.10～R7.9)
3	おかげバスデマンドの利用者数	3,573人	未達成 2,462人 (R6.10～R7.9)	3,041人 (R6.10～R7.9)
4	沼木バスの利用者数（スクール用を除く） ※令和3年度より沼木バスデマンドも含む	3,722人	未達成 3,145人 (R6.10～R7.9)	3,410人 (R6.10～R7.9)
5	年間利用者数72名未満のコミュニティバス停留所の割合	31%	未達成 23% (令和6年度)	21%
6	市民アンケートの交通環境満足度（満足・どちらかといえば満足）	49%	未達成 32% (令和6年度)	59%
7	内宮の参拝者の公共交通利用率	31%	未達成 26% (令和6年度)	35%
8	路線バスの利用者数（外宮内宮線・CANばす・二見サンアリーナ線）	2,676,600人	未達成 1,783,300人 (令和6年度)	3,000,000人
9	公共交通の啓発・利用促進事業に参加した人数	857人	達成 986人 (令和6年度)	940人
10	おかげバス・おかげバスデマンドのページ（伊勢市ホームページ）アクセス数	38,376件	達成 64,719件 (令和6年度)	42,000件
11	伊勢地域公共交通会議の開催数	5回/年	達成 5回/年 (令和6年度)	4回/年

●課題と対応**○コミュニティバス**

- ・ おかげバス：鹿海・朝熊線、二見線の利用者が目標未達成

⇒鹿海・朝熊線や二見線のような減少傾向の路線は、特に地域住民との意見交換会などを通じた利用の調査を行い、それらを勘案したバス停位置や路線の再編、ダイヤ変更などの検討が必要。改善予定路線として次期計画に位置付ける。

- ・ 沼木バス：去年は通学定期利用が消失して基準を満たせなかった系統が、今年は補助基準を満たした。

⇒通学利用はなくなったが、定期的に利用される方が現れたことで、市内連絡用（1）の系統は補助基準を満たすことができた。利用者の掘り起こしとして、高齢者層を中心に自動車依存の生活から沼木バスを利用する生活への移行を支援する取り組みを、運行事業者の沼木まちづくり協議会と連携して実施する必要がある。

○公共交通機関の周知・利用啓発

- ・ 啓発手段として、例年実施している**時刻表の作成配布、広報誌やSNSアカウントでの情報発信、バスの乗り方教室**の開催、**バスポスターコンクール**のほか、バスの乗り方をやさしく解説した「**やさしいバスの乗り方ガイド**」を作成する予定。

- ・ **「バスの乗り方」をわかりやすく解説した動画コンテンツ**（多言語）を活用し、非利用者層の市民と観光客（インバウンド含む）双方の利用率向上を目指す。

- ・ 観光目的の公共交通機関による来訪も回復基調

⇒式年遷宮を機に関心が高まると考えられる神宮125社をめぐるモデルコースの発信を引き続き更新していく。また、観光客（インバウンドを含む）に対するアプローチを次期計画に位置付ける。

○バスの利用環境の改善

⇒環状線での乗継割引券、バス情報フォーマットG T F S - J Pでのデータ提供やバスロケシステムと連携したリアルタイム表示、キャッシュレス決済サービス等の継続実施

⇒**選挙開催時の期日前投票利用者の移動支援**のほか、**バス待合環境改善のためのベンチ設置、お試し乗車券**のような、バスに乗るきっかけづくりを創出し、新規利用者の掘り起こしと利用の定着を図る。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	・目標の達成に向け、周知や利用啓発といった取組の継続的な実施に加え、おかげバスの1日乗車券のデジタルチケットの追加やGTFSリアルタイムの導入など、新規の取組も積極的に実施していることを評価します。	・バスの乗り方教室や伊勢まつりのような利用啓発に加え、利便性の向上につながる施策はデジタル技術の活用とあわせて継続的に実施していく。新規の取組である期日前投票の移動支援も開始した。	財政的な制約もある中で、少しでも利用者の利便が向上するようなアイデアや利用につながるようなアイデアを、他自治体の事例も積極的に活用して取り組んでいきたい。
	・現在準備中の神宮125社を公共交通で巡るモデルコースの紹介など、観光客や来訪者に向けた公共交通の利用促進や地域の魅力の発信に関する取組の継続に期待します。	・「～公共交通でゆく～神宮125社めぐり帖」として、ホームページの公開を行ったほか、モデルコースを元にしたガイド付きのウォーキングツアーを実施した。バス等を利用したツアー体験を通して、バスが実際に使える移動手段であるという認識を持ってもらった。	・現在、政教分離を考慮し、内容のリニューアル工事を実施している。より公共交通や地域のスポットに焦点を当てたページ構成となるように改修し、引き続きエリアの公開を進めていく。あわせて広報やSNSでの周知も実施していきたい。
	・市内を運行する地域間幹線系統のうち輸送量が低迷している系統について、引き続き、利用促進や系統維持に向け県や関係者と連携して取組を実施されるよう期待します。	・市内の地域間幹線系統の中でも土路今一色線は特に利用が落ち込んでおり、事業者からはこのままでは運行を継続できない旨表明されている。路線の維持に向けた事業に取り組んでいるほか、将来的な地域交通の在り方についても検討中である。	・土路今一色線については、地域旅客運送サービス継続事業を活用した路線の維持を検討したい。その後やそれ以外の路線・地域についても策定する地域公共交通計画に基づき、交通の維持・改善に取り組んでいきたい。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	・5年ぶりに開催された「伊勢まつり」で、バスポスターコンクール表彰式や作品展示を行い、また小型電気バスの展示、利用相談コーナーの設置等、PRに努めたことを評価します。	今年度も引き続き「伊勢まつり」での啓発を行ったほか、自治体広報誌の表紙へのバスポスター起用など、子どもから大人まで幅広い年代に対しバスのPRに努めた。	将来のバス利用者となる若年層や、バス利用が多い高齢世代に対し、 動画コンテンツを活用したPRや体験型の乗り方教室 などを企画し、 啓発内容のブラッシュアップ をしていきたい。
	・沼木地区自主運行バスについて、引き続き、関係者と連携・協働し、地域の声の把握、現状分析、補助等支援のあり方やダイヤ・ルート及び利用促進の検討などの取組が進められることを期待します。	沼木バス委員会の会議に参加し、今後の沼木地区自主運行バスの在り方について協議した。現行の仕組みを継続する場合、 ドライバーの高齢化や車両の老朽化 （買い替え）が課題であることを共有した。	車両の更新を控えていることから、国や県の 補助金を活用 しながら、利用者の少ない定時路線を デマンド交通へ切り替える など、 効率的な運行を地域と検討 していきたい。
	・観光地という特性も踏まえ、引き続き、市外からの来訪者に対する公共交通に係る情報発信や公共交通に乗ってみたいとなるような利用促進を期待します。	現在、摂社や末社を含めた 神宮125社を公共交通機関で訪れてもらえるようなモデルコース付きのホームページコンテンツ を作成中。市外からの外宮内宮線以外のバス等の利用促進につなげたい。	左記のマップ作成後、 観光案内所などへのQRコードの設置・SNSでの発信 を行い認知度の向上を図る。エリアごとに立ち寄りスポットを紹介し、 観光利用につながる取り組みを実施 したい（令和7年3月より開始）。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
公共交通 会議			①			②		③	④	⑤		⑥
	伊勢市地域公共交通計画の策定											
主な行事			◆確保維持改善計画			★次年度予算要求			(第三者評価委員会) ◆			
実施する こと		次年度事業計画の 検討								実施状況確認、課題改善検討		
		P								C		
										A		
事業実施	D											
	今年度事業の検証											

- ・令和6年度第3回 11月26日 主な議題：計画策定、伊勢玉城線の運賃改定、夜間早朝交通対策部会の報告 など
- ・令和6年度第4回 12月25日 主な議題：事業評価、R7.4のダイヤ変更、計画策定 など
- ・令和6年度第5回 3月11日 主な議題：計画策定と現計画の延長、次年度事業計画、神宮125社めぐり など
- ・令和7年度第1回 6月6日 主な議題：事業報告、フィーダー計画認定申請、計画策定、土路今一色線の再編、日本版ライドシェア、自動運転バス など
- ・令和7年度第2回 9月1日 主な議題：計画策定、お試し乗車券、土路今一色線の再編、神宮125社めぐり など
- ・令和7年度第3回 11月21日 主な議題：計画策定、R8.4のダイヤ変更、土路今一色線の再編 など
- ・令和7年度第4回 （書面） 主な議題：事業評価など

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年12月19日

協議会名:	伊勢地域公共交通会議
評価対象事業名:	令和7年度地域公共交通確保維持改善計画(地域公共交通確保維持事業のうち地域内フィーダー系統関係)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
	公共交通サービスの地域格差の是正や、交通弱者への病院や商業施設等への日常的な交通手段の提供、市内を放射状に運行する路線バスへの補完など、公共交通サービスの充実を図るため、公共交通の不便な地域のほか市内の主要な施設を結ぶ路線を運行	コミュニティバスの運行維持 ⇒コミュニティバスの運行により、自らの移動手段を持たない交通弱者に対し買い物・通院等の移動手段の維持・確保を実施。 おかげバス環状線の運行と市内を運行する路線バス等の利用促進 ⇒令和2年4月からの本格運行を開始後、感染症の影響を受けつつも継続的な運行を実施し、利用者数は増加傾向。環状線とおかげバスの他の路線、路線バス、鉄道および地域運営乗合タクシーとの乗り継ぎの際の、乗継割引を継続して実施。	A計画どおりバスを運行するとともに、周知利用促進活動も実施するなど、事業は適切に実施された	【全体評価】 ・おかげバスの目標は、コロナ後の生活様式の変化を踏まえ、令和5年のフィーダー認定申請の際に目標値を再設定している。 ・今年度に設定したおかげバスの目標(令和7年度)は、令和6年度の実績に対し伸び率2.6%としている。なお、環状線は、6年度の目標値に対し伸び率3%を目標としている。 ・沼木バスの目標は、利用者数が補助基準の下限基準(片道あたり1名以上乗車) ・目標値を超えたものについては「A評価」、目標値と実績値での比較で達成率90%以上のものを「B評価」、それ未満を「C評価」とする。	・おかげバスについては、東大淀・明野・小俣線と環状線で前年より利用者が増加した。一方で、減少傾向にある鹿海・朝熊線や二見線においては、地域住民との意見交換会などを通じて利用の調査を行い、それらを勘案したバス停位置や路線の再編、ダイヤ改正などの検討が必要である。次期地域公共交通計画にも改善予定路線として位置づける。
三重交通株式会社	鹿海・朝熊線(R6.10～R7.9) 〔いせトピア～朝熊町～いせトピア〕			C【利用者数】 目標: 8,700人 実績: 7,307人	【1人あたり税金投入額】 目標: 1,280円 実績: 1,532円
	東大淀・明野・小俣線(R6.10～R7.9) 〔伊勢赤十字病院、小俣図書館～近鉄明野駅前～山大淀〕	周知・利用促進活動の継続的な実施 ⇒伊勢まつりでのブース出展、バスポスターコンクールやバスの乗り方教室の開催など、バス等に触れる機会の提供を継続して実施しているほか、伊勢市制20周年を記念した「お試し乗車券」の全戸配布など、幅広い世代に認知し、利用してもらえるような機会の創出を実施。		A【利用者数】 目標: 23,400人 実績: 23,997人	【1人あたり税金投入額】 目標: 1,370円 実績: 1,337円
	二見線(R6.10～R7.9) 〔松下広場～浜郷小学校前/山商口～五十鈴川駅前〕			C【利用者数】 目標: 12,300人 実績: 10,972人	【1人あたり税金投入額】 目標: 1,550円 実績: 1,748円
	辻久留・藤里線(R6.10～R7.9) 〔大倉うぐいす台～勢田町～伊勢市役所正面〕			A【利用者数】 目標: 13,000人 実績: 14,648人	【1人あたり税金投入額】 目標: 1,520円 実績: 1,356円
	環状線(R6.10～R7.9) 〔伊勢市駅前～伊勢病院前～伊勢市駅前〕	沼木自主運行バスについて ⇒沼木バス委員会との会議で今後の沼木地区自主運行バスの在り方について協議した。現行の仕組みを継続する場合、ドライバーの高齢化や車両の老朽化(買い替え)が課題であることを共有した。また、もともと運転免許を持っている人が多い世代が高齢化するなかで、いかに沼木バスの利用を生活に取り入れてもらえるかが課題であることも共有した。		A【利用者数】 目標: 59,700人 実績: 62,087人	【1人あたり税金投入額】 目標: 740円 実績: 718円
伊勢市	沼木地区自主運行バス 市内連絡用(1) 〔床ノ木～横輪口～神園〕 (R6.10～R7.9)			A【利用者数】 目標: 310人	実績: 342人
	沼木地区自主運行バス 市内連絡用(2) 〔床ノ木～横輪口〕 (R6.10～R7.9)	観光目的による公共交通機関の利用促進		C【利用者数】 目標: 930人	実績: 333人
	沼木地区自主運行バス 市内連絡用(3) 〔床ノ木～横輪口～津村口〕 (R6.10～R7.9)	⇒神宮125社を公共交通機関で訪れてもらえるようなモデルコースをホームページで公開した。二見エリアについては、モデルコースをもとにしたウォーキングツアーを開催し、公共交通や地域の魅力を感じてもらう機会となった。市内の観光路線(外宮内宮線など)以外の利用につなげていきたい。		C【利用者数】 目標: 310人	実績: 103人
	沼木地区自主運行バス 市内連絡・買物用(1) 〔床ノ木～横輪口～津村～度会町役場前〕 (R6.10～R7.9)			A【利用者数】 目標: 1,550人	実績: 1,553人

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年12月19日

協議会名：	伊勢地域公共交通会議
評価対象事業名：	令和7年度地域公共交通確保維持改善計画(地域公共交通確保維持事業のうち地域内フィーダー系統関係)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>平成28年3月に策定、令和2年3月に改訂した伊勢市地域公共交通網形成計画において、伊勢市が目指す将来像を「気軽におでかけができ、交流と活力に満ちた地域社会を支える地域公共交通」とし、その実現に向け「私たちが創り、育む、持続性のある地域公共交通網の構築」という基本理念を定めている。</p> <p>目指すべき将来像や基本理念を実現するために、「日常生活で利用できる公共交通を目指す」、「公共交通を利用した観光交流人口の増加を目指す」、「地域の関係者が協働・連携しながら自ら公共交通を支える」の3つの基本方針を定め、事業の推進を図っている。</p> <p>その中で、「日常生活で利用できる公共交通を目指す」ために公共交通不便地域の解消、自らの移動手段を持たない交通弱者が、病院、商業施設等への移動手段の確保、バス利用での利便性の向上、バスやバス停の周辺環境の改善、これらを実施するとともに、ルート・ダイヤの見直しなどの効率化を図り、バス路線の維持・確保をしていく。</p>